



宮城

国産ギターの新ブランド
東北の智恵、素材、技術を
フル活用し
女川町から世界へ挑戦！

セッシヨナブル

セッシヨナブル(宮城県女川町、梶屋陽介社長、0222・393・4540、<http://glide-guitar.jp>)は、東日本大震災の復興まちづくりが進む女川町のテナント型商業施設「シーパルピア女川」に、オリジナルブランド「QUESTREL(クエストレル)」のエレキギターを生産する工房を設立した。

ギターの設計は、高級スポーツカー・フェラーリのデザインでも知られる、世界的な工業デザイナー・奥山清行氏(山形市出身)が手がけ、ボディの下部を大胆にくりぬいた斬新なフォルムに仕上がった。ギターのネックとボディは、陸前高田市の宮大工の伝統工法を取り入れた。木材を組んでつなぎ合わせることに、木部の密着度を上げて楽器の振動性を高め、クリアな音質を得ることができる。金属部分には、釜石市の企業が開発したコバルト合金「コバリオン」を採用、通常の金属より減衰率を低く抑え、音に伸びと厚みを持たせることが可能となった。また、汗などで変色しにくいという利点もある。

クエストレルブランドは「東北が持つ技術やポテンシャルを最大限



女川町の工房

に引き出すこと」にこだわっており、宮大工の工法やコバリオンをギターづくりに応用するのは業界初となる。東北の智恵、素材、技術を集約して製造したギターは、日本・アメリカを中心に今後世界各国への販売を見据えている。

鹿児島県出身の梶屋社長は、20代で東京・お茶の水の楽器店でギターを中心に楽器の販売を担当するトップセールスマンとなった経歴を持つ。被災地で支援物資の配布などのボランティアをするうち「復興のためには、職種を増やせる新しい産業を興す必要がある」と感じ、女川町を拠点として



梶屋社長と間もなく完成の「クエストレル」新作ギター

独立した。こうした梶屋社長の想いには、女川町長をはじめ町の企業経営者らも賛同しており、多くの期待を受けている。今後は地元採用も増やし、地域とともに発展をめざす。